

恋人の聖地包む淡い光

内灘町観光協会は6日、「恋人の聖地」を象徴する町総合公園の見晴らし台周辺に発光ダイオード（LED）のライト400個を設置した。淡い光がカップルを迎え、幻想的なムードが漂った。

LEDライトの設置は今年3年目で、太陽電池式の筒形

内灘の見晴らし台

ライトを使用した。協会によると、暗くなると自動的に点灯し、最大で8時間程度発光するという。ライトは、「鐘つき堂」やハート形のオブジェの周り、通路の両脇に9月末まで置かれる。6日は、丸岡健二会長ら8人が設置作業に当たった。

ライトアップされた通路＝内灘町総合公園

